

スマイルズの『自助論』エッセンス版。

・一芸に秀でようと決意したら

「絵画で、いや、どんな芸術でも同じことだが、あることに秀でようと決心したら、朝起きた瞬間から眠りにつくまで、その一つの目的のことばかり考えているという覚悟がなければならない」と。

またべつの機会には、こうも述べています。

「一芸に秀でようと決意したら、気が乗ろうと乗るまいと、朝、昼、晩、いつも修練だ。これは遊び半分の楽しみなどではなく、とてもきつい労働なのだ」

・目的意識

求めるに値する目標を決めて断固として追求すること、それが自分のなかに真にすぐれた〈人間〉を築き上げるための根本(おおもと)なのです。

そしてエネルギーさえあれば、どんな社会的な地位にいようと、つらくて退屈な仕事や、細かくてつまらない義務をやり抜いて、前に向かって、そして上に向かって進んでいくことができます。天才的な能力よりも、こちらのほうが大きな仕事を成し遂げてくれるし、失望や危険にさらされることもそんなにないのです。どんな分野であろうと、成功をもたらすのは、すぐれた素質ではなく、目的意識なのです。単なる能力ではなく、エネルギーに持続して取り組もうという決意なのです。

このように考えると、意欲するエネルギーは、人格の持つ力の中心をなすものであると言えることができるでしょう。つまり、意欲するエネルギーこそが人間なのです。それが人間の行動を生む火花であり、人間の努力に魂を灯すのです。真の希望は意欲の上に築かれ、希望があってこそ人生がほんとうに楽しくなります。

・しゃしゃり出たがる人間

『おとなしい』というのは、えてして、活動力に乏しいか、ずぼらな性格か、勉強不足かの言い換えである。十分に訓練され、成熟した才能は、努力を怠らないかぎり、いつか必ず世に受け入れられるものだ。ただし、家にひきこもって、よそから声がかかるのを待っているのではいけない。あつかましく、しゃしゃり出たがる人間が成功し、能力があっても奥ゆかしい人間は見逃される、などと言いたがる人間もよくいる。しかし、しゃしゃり出たがるということは、フットワークが軽く行動的であるという、重要な資質をそなえているということであり、これがなければ、せつかくの能力もよく使われずに終わる。吠える犬は、眠れる獅子よりも有用である場合が多いのだ。

・必要とされる資質

集中力、持続力、正確さ、凡帳面さ、時間厳守、そして迅速さは、どんな分野であろうと、ビジネスを能率よくこなすために必要とされる資質です。一見したところ、どれも些細なことに見えるかもしれませんが。しかしこれらは、幸せで豊かで役に立つ人間として人生をおくるために、どれも欠かせないものです。

・休むのは仕事のあと

やらなければな

らないことは、どんなことであれすぐにやること。休むのは仕事のあとにする。仕事の前であってはならない。軍隊が行進しているとき、先頭が一定の速度で動かないために、後ろが混乱するということがよくある。ビジネスでも同じことだ。目前にあることをすぐに、着実に、整然とおこなわなければ、他の仕事が後ろにたまって団子になってしまい、しまいにはすべてをいっぺんに片付けなければならなくなる。

・ 錨磨き

洋上の軍艦で観察されていることですが、水兵の不満がもっとも高まり、反乱が起きやすくなるのは、彼らにたっぷりと暇のあるときです。そこで、ある老練な艦長は、水兵に何もすることがなくなれば、「錨磨き」の命令を発したものだそうです。

・ 一日十五分

一日に十五分でよいのです。自分を高める努力をするなら、一年経ったとき、あなたはきっと違いを感じているでしょう。

・ 成功した人生とは

人生でもっとも重要な目的とは、自分のなかの人間を鍛え、肉体と精神を、頭脳を、良心を、思いやりを、そして魂を、できるかぎり大きく発達させることです。これこそが最終目的です。その他のことは、すべてそれを達成するための手段とみなさねばなりません。

したがって、成功した人生とは、喜びの大きい人生、お金をたくさんもうけた人生、大きな権力や高い地位、名誉や名声を手に入れた人生ではありません。人間として大きく成長し、社会の役に立つ仕事をたくさんし、人間としての義務を十分に果たした人生こそが、成功した人生なのです。

・ 知識より知恵

さらに、本から得た経験は、貴重なものではありませんが、しよせん「知識」の域を出ないということをお肝に銘じる必要があります。これに対して、人生から得た経験は「知恵」です。そして膨大な「知識」があるより、「知恵」が少しあるほうがすばらしいのです。

・ 何かをおこなう

我々は、自らが何者かになり、何かをおこなうのでなければなりません。ただ単に、他人が何者であったか、何をおこなったかを本で読み、それについて考えるだけで満足してはだめです。自分自身の最高の輝きから人生をつくり、最高の思いから行動を生み出さなければなりません。

・ 魂を快樂にまみれさせることは有害

「仕事ばかりして遊ばないと、退屈な人間になってしまう」ということわざがありますが、その逆の、遊んでばかりで仕事しないのは、比べようもなくまずいことです。若者にとって、魂を快樂にまみれさせることほど有害なことはありません。精神の最良の資質が損なわれ、普通の楽しみでは満足できなくなるばかりか、高尚な楽しみへの欲求が失せてしまいます。そしていざ仕事や人生の義務に向かいあったら、嫌気と嫌悪感しか感じないというのがお決まりのパターンです。

・ 圧(お)されたときに、香りを放つ

「困難は甘き果実なり」といいます。それによって自分の力量がわかるし、エネルギーが湧き出てきます。ほんとうに人間ができてるなら、香り高いハーブと同じことで、ぎゅっと圧(お)されたときに、いちばんよい香りを放つのです。

・ 紳士

ほんとうの紳士には、鋭いユーモアのセンスがあり、繊細に気を用いていやしい行動を避けようとしています。そして自分の言動にもとめる潔さのレベルは、きわめて高度です。紳士は言い逃れをせず、曖昧にぼやかしたりしません。ごまかしもしなければ、逃げ口上も言いません。あくまで正直で、直截(ちよくせつ)で、まっすぐです。厳正でフェアであること、まっすぐに行動すること、それが紳士の法です。紳士がイエスといえ、それが法となります。そしていざというときには、ノーという勇気をも持っています。